

景気動向調査 令和4年度・第2期（令和4年7月～令和4年9月）

調査概要

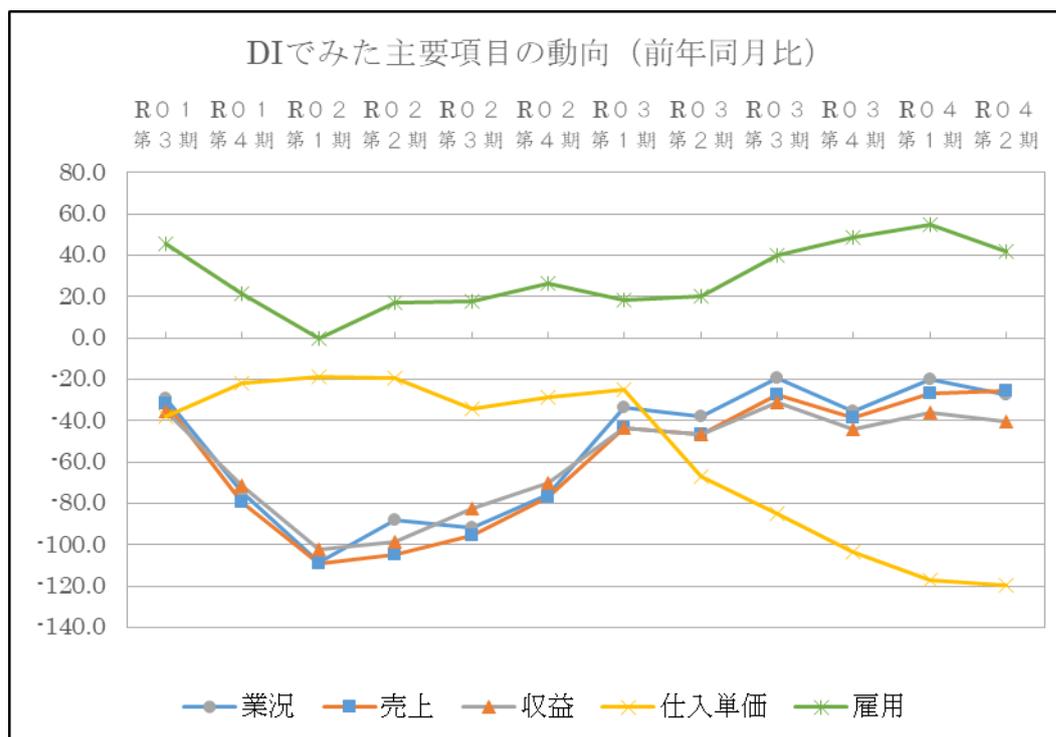
調査対象:赤穂商工会議所管内 120社

回収:91社 回収率:75.8%

調査対象期間:令和4年7月～令和4年9月(令和4年度・第2期)

DI値:「良い+やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い+悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計DI

区分	R4第1期 (R4年4月～6月)	R4第2期 (R4年7月～9月)	先行き見通し (R4年10月～12月)
業況	△20.2	△27.5	△14.3
売上	△27.0	△25.3	△4.4
収益	△36.0	△40.7	△24.2
仕入単価	△116.9	△119.8	△95.6
雇用	55.1	41.8	34.1

※雇用DIについては、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査(R4年1期)に比べ7.3ポイント下降の△27.5となった。売上DIは1.7ポイント上昇の△25.3、収益DIは4.7ポイント下降の△40.7となり、また仕入単価は2.9ポイント下降で△119.8、雇用DIは13.3ポイント下降の41.8となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果(R4年2期)に比べ13.2ポイント上昇の△14.3で、売上DIは20.9ポイント上昇の△4.4、収益DIは16.5ポイント上昇の△24.2、仕入単価DIは24.2ポイント上昇の△95.6、雇用DIは7.7ポイント下降の+34.1となっている。

売上DI

区分	R3 第2期	R3 第3期	R3 第4期	R4 第1期	R4 第2期	先行き 見通しDI	先行き 期待感
全体	△46.4	△27.6	△38.5	△27.0	△25.3	△4.4	20.9
建設業	△56.3	△42.9	△66.7	△73.3	△26.7	△6.7	20.0
製造業	4.0	△3.6	△17.9	△44.0	△12.0	4.0	16.0
卸売業	△88.9	△37.5	△54.5	△66.7	△50.0	△20.0	30.0
小売業	△77.3	△78.3	△63.6	△3.8	△52.0	△20.0	32.0
サービス業	△71.4	37.5	25.0	66.7	30.0	40.0	10.0
不動産・ 運輸業	△20.0	16.7	△28.6	△20.0	△16.7	△16.7	0.0

○産業別の売上DIは前回調査(令和4年1期)と比較すると、建設業が△26.7(+46.6ポイント)、製造業が△12.0(+32.0ポイント)、卸売業が△50.0(+16.7ポイント)、不動産・運輸業が△16.7(+3.3ポイント)で改善、小売業が△52.0(△48.2ポイント)、サービス業が30.0(△36.7ポイント)で悪化となった。

また、全体の先行き見通しDIは今回調査結果(R4年2期)と比較し△4.4(+20.9ポイント)となっている。

経営上の問題点 (上位3項目)

区分	R3 第2期	R3 第3期	R3 第4期	R4 第1期	R4 第2期	前回調査比
売上の停滞・減少	57.6	31.0	34.1	28.1	27.5	△0.6
原材料高	19.7	19.5	24.2	28.1	25.3	△2.8
人手不足	24.2	18.4	18.7	18.0	16.5	△1.5

○事業所からのコメント

建設業：仕入単価がヶ月で変動したりするので、見積もり・請求時の見直しに時間が取られている。

卸売業：主原材料が10月に20%値上げ。1月頃には30%値上げが予告されている。価格転嫁できるか非常に心配。

小売業：エネルギーコスト上昇による収益悪化が下期も続くと思われる。

小売業：ウクライナ戦況の航路縮小により納期が大幅に遅れている。

サービス業：募集をするが、なかなか応募のない状況が続く。

<参考>

有効求人倍率

区分	R4.8月	R4.7月	R4.6月
一般(常用)	1.07	1.16	1.19
パート(常用)	1.55	1.50	1.38
一般+パート(全合計)	1.27	1.31	1.28

